



## 男女の視点で魅力あるまちづくり

市民の立場から施策決定や策定に意見を伝えることができるのが各審議会や委員会です。多様化している住民や地域のニーズに合わせ、女性の視点や意見が求められています。また、女性の委員は少ないのが現状です。現在、市の審議会などでの女性委員の割合は25%。まずは重点目標、指標30%の達成に向け、女性登用の拡大を進めています。

同時に、こうした場に積極的に参画し、発言できる人材の発掘と養成を目指し、女性人材リストの拡充や登録者を対象とした研修会を行っています。



## 女性人材リスト登録者を募集しています

市では、市内で活躍する女性を登録し、市が実施する講座や研修会の講師、審議会や委員候補として推薦しています。  
あなたの能力を市の施策に生かしてみませんか。



**対象** 市在住の20歳以上の女性で次に該当する人

- 市政に関心があり、社会活動や地域の発展に熱意を持って貢献できる人
- 仕事、研究、芸術、スポーツなどの各分野で専門的な知識や活動実績がある人、または有識(資格)者



## みんなで学ぼうじんけん

生涯学習課 ☎27-4300

「今年も定員内不合格となり、残されたチャンスは二次募集のみとなりました。K高校は小・中学校で不登校だった生徒のケアなど、インクルーシブ教育的実践に挑戦していると聞き、訪問すると、「K高校を受験校候補にしてください、ありがとうございます」と経験したことのない言葉をかけていただき、出願へと踏み切りました。以下、内お母さんの啓さん通信から」

入試点数を採ることが高校進学では当たり前と思われがちですが、実は、実は合格点でも不合格となった車いす利用の子どもたちが、裁判に訴えねばならない時代が過去にはありました。「障害」の有無にかかわらず、全ての子どもが同じ教室で共に学ぶインクルーシブ教育は、共生社会を築く上で欠かせないものと国際的には考えられています。日本の教育現場では「障害」のある子どもも多く、そのうでない子どもと分けられているのが現状です。

「入学3日目」迎えに行くと、満面の笑みで出て来た先生たちが、「啓くん、帰りたくないって言っています。学校が楽しいって」。啓は最後までクラスメイトの男の子たちが教室を出るのを見て出てくる。始まったばかりだけれど本当に良かったね。先生方に感謝だね」

共生社会の礎となる「共に学び、育つ」ことの経験。それを模索するK高校の実践を見守っていきたいと思います。



本田博通地域人権教育指導員が学校で働いていた経験などから「じんけん」の今をお伝えします



## 高校へバトンをわたす

ご存じですか、大阪では府立高校11校が「知的障害生徒自立支援コース」枠を設け、共に学ぶ場を提供しています。「障害のある生徒が、あたり前のよう長もさることながら、周囲の生徒の肉体的な成長も大きく促します」がその教育方針です。

重度知的障害のある啓(仮名)さんは昨年、宇城市の中学校を卒業し、定員割れをしている複数の高校を受験しました。が、いずれも不合格。今春の再チャレンジで見事合格しました。

「今年も定員内不合格となり、残されたチャンスは二次募集のみとなりました。K高校は小・中学校で不登校だった生徒のケアなど、インクルーシブ教育的実践に挑戦していると聞き、訪問すると、「K高校を受験校候補にしてください、ありがとうございます」と経験したことのない言葉をかけていただき、出願へと踏み切りました。以下、内お母さんの啓さん通信から」

入試点数を採ることが高校進学では当たり前と思われがちですが、実は、実は合格点でも不合格となった車いす利用の子どもたちが、裁判に訴えねばならない時代が過去にはありました。「障害」の有無にかかわらず、全ての子どもが同じ教室で共に学ぶインクルーシブ教育は、共生社会を築く上で欠かせないものと国際的には考えられています。日本の教育現場では「障害」のある子どもも多く、そのうでない子どもと分けられているのが現状です。

「入学3日目」迎えに行くと、満面の笑みで出て来た先生たちが、「啓くん、帰りたくないって言っています。学校が楽しいって」。啓は最後までクラスメイトの男の子たちが教室を出るのを見て出てくる。始まったばかりだけれど本当に良かったね。先生方に感謝だね」

# 正しく知ることから

## — 市職員研修レポート —

☎ 人権啓発課 ☎32-1708

## 5月19日 人権教育啓発研修

りんどう相談支援センター(熊本市)の西章副センター長と県人権関係登録講師の吉永理巳子さんを講師に迎え、市長、教育長をはじめ、係長級以上の市職員計130人が参加しました。演題は「私たちのハンセン病問題」と「水俣に生まれて」。偏見や差別をなくすために私たちがすべきことを学びました。この研修は今後も開催し、全職員が受講予定です。

▼西副センター長による講話



▲吉永さんによる講話

## 現地研修

市長、教育長をはじめ、各部署で選任している人権教育啓発推進員などの職員延べ60人が現地で学び直しを行いました。



◀ 太田副会長による講話



▶ リデル、ライト両女史記念館の秋山大路館長による講話

## 5月20日 ハンセン病問題

国立療養所菊池恵楓園(合志市)を訪問し、90年にも及ぶ誤った施策によって作り出された偏見・差別の実態について学び、知識を深めました。

入所者自治会の太田明副会長は「ハンセン病は感染力が極めて弱く、完全に治る病気である。ハンセン病問題は人権問題。現地を訪問し、当事者の話を聞くことが大切。差別をなくすなまをつくるのが必要だ」と語られました。その後、リデル、ライト両女史記念館(熊本市)を訪問し、ハンセン病患者救済に尽くした2人のイギリス人の生涯を学びました。この研修を通して、ハンセン病問題の歴史的背景や現状、当事者の思いを知る貴重な体験となりました。

## 5月29日 水俣病問題

水俣病資料館(水俣市)を訪問し、水俣病の歴史と現状を正しく理解するとともに、偏見・差別の問題、命と健康、環境の大切さを学びました。

語り部の会緒方正実会長は「水俣病は人にうつらない病気である。反省は前進のための土台づくり。水俣病問題に正面から向き合い、『正直に生きる』ことが大切。偏見や差別をなくす取り組みを推進してほしい」と語られました。

その後訪問した水俣病歴史考証館(水俣市)では、水俣病の社会的・精神的被害や偏見・差別の実態について理解を深めました。この研修を通して、水俣病問題の社会的教訓を学び、また当事者との出会いを通して私たち自身の行動を振り返り、見つめ直す大切なきっかけとなりました。

▶ 緒方会長による講話



◀ 水俣病歴史考証館で、百間排水口の樋門\*を説明する遠藤邦夫さん  
\*廃液の排水口に設置されていた樋門